厚生常任委員会施策研究テーマについて（報告）

西宮市議会議長　殿

平成 25 年６月４日
（2013 年）

厚 生 常 任 委 員 会
委　員　長　山 口　英 治

本委員会では、以下１件を年間の施策研究テーマと定め、調査・研究をしてまいりましたので、御報告申し上げます。

１　西宮市児童発達支援センター等施設整備事業について

平成 24 年 12 月 17 日に、委員会を開催し、児童発達支援センター等施設について、市当局より、現在の取り組み状況や基本計画、基本設計等の詳細な説明を聴取するとともに、質疑を行い、意見要望等を伝えました。

また、平成 24 年 10 月 31 日に、管外視察として東京都杉並区を訪れ、こども発達センター施設の見学を行い、現状や課題を調査しました。

（１）委員会における市健康福祉局からの報告

- 西宮市児童発達支援センターの建設については、現在のわかば園の建てかえということだけでなく、多様化する障害のある子どもや保護者の支援に対応するために、現在のわかば園を移転整備するものである。
- 新施設の建設場所は、通所する親子が市内全域に及ぶことを想定し、市内の中心部に位置し、交通の至便な西宮北口地域の高畑町とした。駅からは歩道橋が整備されており、車いすでも利用しやすくなっている。
- 新施設は、乳幼児期から学齢期に至る幅広い支援を継続的に提供していくことをめざし、スクーリングサポートセンターとの複合施設となる。

・　施設の整備方法は、西宮市が作成した基本設計をもとに、民間事業者が施設の維持管理、運営上の利便性の向上及びコスト面の提案を行った上、実施設計及び建設工事を行う、基本設計先行型デザインビルド方式を活用する。
・　整備事業の流れとしては、24 年度に基本計画の策定、基本設計、25 年度に事業者の選定、建設工事開始、27 年夏頃に開設の予定である。
・　新施設での支援の対象となる子どもの数は、将来の人口推計をもとに、要支援の子供の割合である 11%から要療育に該当する子どもの数を推定し、1554 人と見込んでいる。
・　新施設の支援コンセプトは、①必要に応じた支援の実施、②つなぎの強化、③専門性の強化、④学校園・地域の支援力の育成である。
・　新施設は、各階層別に部門配置を計画し、１階には保育室、医務室、交流サロンなど、通園部門を、２階には診療所、リハビリ室等、診療・リハビリ部門を、３階には職員室や相談室等、事務部門を、４階には学習室や活動室等、適応指導部門を、５階にはプールを配置する。

（２）委員会における各委員からの質問、意見、要望
・　新施設で対象となる子どもの数は、1,554 人と計算しているが、この数は時代の流れとともに増えていくのではないか。将来、利用者が大幅に増加した場合でも、施設の受け入れは対応可能か。
・　基本設計において、将来の環境が変化した場合でも対応が可能な施設という位置づけは非常に大事なことである。今後の見直しの中で、そういう対応ができるよう工夫していただきたい。
・　現在のわかば園はとても狭い。新施設は 4,200 平米と書いてあるが、現在のわかば園の面積はいくらか、新施設は現在のわかば園の何倍の広さになるか。
・　新施設の設計にあたり、実際に勤務する現場職員の意見はどこまで取り入れているか。現場職員の意見を取り入れていただきたい。
・　教員研修、関係者研修を開設してから行うのではなく、今から始めていただきたい。
・　保育士の配属について、保育士は発達障害の早期発見には重要なポストである。同じ職員が継続して勤務することのないよう、人事異動を行い、人材をつないでいくことが必要である。
・　子どもの母の話を聞いてあげられるような場、ゆっくりできるような場と

して、家庭支援ということも視野に入れた形でセンター運営をしていただきたい。

（３）管外視察における現状や課題と新設される児童発達支援センターへの要望（抜粋）

- 利用登録者の急増により、特に発達障害への理解が進むにつれ、早期に相談に訪れる 1、2 歳児の発達障害児の来園が増加しているため、発達障害児とその保護者に十分なサービスが提供できていない。
- 医療的ケアが必要な重度障害児が増加しているため、看護師が不足している。看護師、医師など医療スタッフ確保を課題として取り組むことが必要である。
- 現状を踏まえたセンターの新設ではなく、将来的な利用の増加を十分に考慮しておかなければならない。
- 設計の段階で、発達障害児に配慮した、現場の職員が働きやすいように十分聞き取り調査をし、建築するよう要望する。
- 子どもたちが活動に集中できるよう、部屋は可能な限りシンプルな設計にし、子どもの目線・保護者の目線で検討していくこと。
- 収納はできるだけ奥行きがあり大きい方がよい。杉並区のこども発達センターでは、当初不要だろうといわれたほどの大きな収納を設置したが、現実は不足している。
- プレイルーム等に使用する可能性のある部屋の天井は、設計段階からブランコ等の吊り具が吊り下げ可能な構造にしておくこと。
- 指導に使用するための IT 環境の整備が大切。
- 子どもの支援とともに親の支援の重要性も大事である。親子を全面的に支えるためには職員の力量が大事である。
- 母親の気持ちをサポートするために、親子通園日を設けるなど、親の話を聞く機会をつくる必要がある。

以　上